

## 新型コロナウイルス感染症における IL-6 測定の意義

◎奥泉 祐子<sup>1)</sup>、山本 倫子<sup>1)</sup>、高山 知子<sup>1)</sup>、竹本 賢一<sup>1)</sup>、大江 宏康<sup>1)</sup>  
金沢大学附属病院<sup>1)</sup>

## 【背景】

炎症性サイトカインの1つである IL-6 は、感染症や自己免疫疾患で上昇するが、過剰に産生されるとサイトカインストームを生じて多臓器に障害を起こす。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) では、サイトカインストームが重症化の原因の1つであると考えられており、COVID-19 患者で、IL-6 が重症度の判定や重症化の予測につながると報告されている。本邦では、全身性炎症反応症候群の重症度判定の補助を目的として 2021 年 1 月に IL-6 が保険収載され、当院では 2021 年 4 月より 24 時間対応の院内測定を開始した。

## 【目的】

当院に入院した COVID-19 患者において、入院当日の IL-6 を含む各種炎症マーカーと、重症度や転帰との関連を検討することを目的とした。

【対象】 2021 年 4 月から 2023 年 3 月に当院に入院し、入院当日に IL-6 を測定した COVID-19 症例 65 名を対象とした。

## 【方法】

対象患者の入院時重症度 (軽症、中等症、重症)、並びに転帰 (自宅退院、転院、死亡退院) について診療録で確認し、入院当日の IL-6、WBC、CRP、PCT との相関を検討した。解析には統計ソフト EZR ver. 1.61 を使用した。

## 【結果】

患者背景は、女性 19 名 (29.2%) で、平均年齢は 63.2±19.2 歳であった。

表1：重症度別、転帰別のIL-6

		IL-6 (pg/dL)		
		中央値	最小値	最大値
重症度	軽症 (n=16)	27.6	5.1	195.0
	中等症 (n=33)	52.4	1.5	4305.0
	重症 (n=16)	104.3	3.6	54946.0

重症度別の IL-6 は軽症群と重症群とで有意差を認めた ( $p=0.024$ )。CRP は、中等症群は軽症群より有意に高かった ( $p=0.024$ )。WBC、PCT に有意差は認められなかった。

		IL-6 (pg/dL)		
		中央値	最小値	最大値
転帰	自宅退院 (n=27)	21.9	3.1	336.0
	転院 (n=33)	69.1	1.5	54946.0
	死亡退院 (n=5)	113.5	59.5	268.1

転帰別の IL-6 では、自宅退院群と転院群、自宅退院群と死亡退院群とで有意差を認めた ( $p=0.013$ 、 $p=0.032$ )。WBC、CRP、PCT に有意差は認められなかった。

## 【考察】

IL-6、CRP は重症度と相関が認められた。IL-6 と転帰にも相関が認められ、既報と同様であった。また、CRP は軽症群と中等症群で有意差を認めたが重症群とは相関がなく、WBC、PCT は重症度、転帰ともに関連が認められなかったことから、これらの炎症マーカーに比べ、IL-6 は入院時重症度の判定、転帰の予測に有用であることが示唆された。

## 【結論】

COVID-19 患者の入院時 IL-6 は重症度や転帰と関連があった。

連絡先 076-265-2000 (内線 7163)